# 昔話

コラム

## 昔話とは何だろう

昔話は、 古くから主として農民のあいだで口伝えされてきた物語です。それはかならず耳で聞かれてきました。そのために、昔話はいつのまにか、耳で聞いてわかりやすい、簡潔な文体になりました。そして、主人公や敵を孤立的に、くっきり浮かびあがらせ、性質や能力は極端に語ることを好みます。

反面、その極端さを写実的には語らないという特徴があります。

また、同じ場面がでてきたら同じことばで語ることによって、しっかり印象を刻みこみます。そして三回のくり返しを好み、それによってストーリーにリズムをつけます。また、時間や場所、条件などを一致させて、はやいテンポでストーリーを進めていきます。そして、場面の説明や気持ちの説明はほとんどしないものです。人物の性質や気持ちは、ストーリーの展開の中で、行動によって示されるのです。

【昔ばなし研究所所長　小澤俊夫『日本の昔話1　はなさかじい』《福音館書店》より引用】

コラム

## 昔話は物語の宝庫、人間の心を解く鍵

「むかし、むかし」は、「向こう」という意味です。「向こう」とは時空の向こう側のことです。そして昔話の結びの言葉「死んでなければ生きているはずですよ」「いきがぽーんとさけた」「とっぴんぱらりのぷ」「どっとはれ」…などは「向こう」からこちらに帰っておいでという合図です。

子どもたちが、日常生活で経験できる、目に見える「こちら」の世界から時空の「向こう」の世界に行き、「あちら」の世界の物語をたっぷり楽しみながら、、新たな人や動物や妖精に出会い＝目に見えない世界＝人間の心の中の世界で存分に遊び、自分を発見(discover)し、そして、帰ってくるのが昔話の世界なのです。

【児童文学作家　斎藤惇夫(愛川町子どもの読書を推進する会主催講演会)より】

## 花咲かじい

『日本の昔話 1 はなさかじい』より

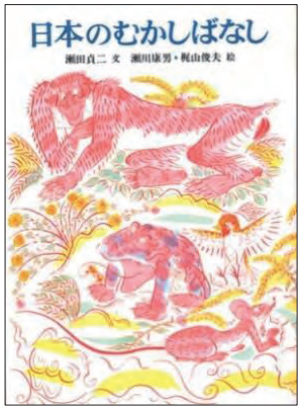
おざわ としお 再話　　赤羽 末吉 画　　福音館書店　　1995年

川で拾った子犬を、じさとばさは子どものように育てます。子犬が「ここほれ、わんわん」と吠えるので、掘ってみると大判小判がざくざくと出てきます。それを聞いた隣の欲張りじさとばさは、子犬を貸してくれと言ってきます。

全5巻で301話の日本の昔話が、昔話らしさを損なわない程度の共通語で再話されています。日本の昔話は四季を反映していることが多く、このシリーズは四季に沿って編集されています。1巻には正月から春を感じさせる話が入っています。ふりがなもついているので子どもにも読み易くなっています。

「浦島太郎」「わらしべ長者」「こんび太郎」などが収められています。

## まのいいりょうし



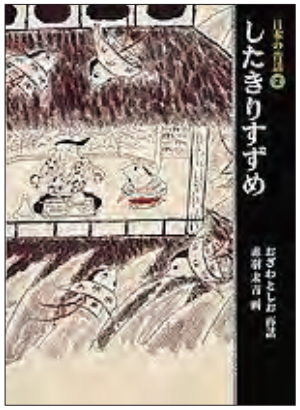

『日本のむかしばなし』より

瀬田 貞二 文　　瀬川 康男・梶山 俊夫 絵　　のら書店　　1998年

ある猟師が、息子の七つの祝いに、山で何か獲ってこようと鉄砲に手をかけたとたん、鉄砲が落ちて筒がへのじに曲がってしまいました。息子は「おとっつぁ、きょうは、げんがわりい」と引き止めましたが、出かけて行ってしまいました。山の池にかもが13羽いたので、曲がった鉄砲で撃つと、弾は「ちどりがけ」にとんでいき、12羽に命中します。残りの1羽は…。それから、次々と良いことが起こり、沢山の獲物を持って家に帰りました。

「さるむこいり」「年こしのたき火」などが収められています。

## うばすて山




『日本の昔話 2 したきりすずめ』より

おざわ としお 再話　　赤羽 末吉 画　　福音館書店　　1995年

60歳になったら山へ捨てるべしという殿さまのおきてをやぶって、兄弟は母親をかくまっていました。ある時、となりの国から3つの謎を解いたら、戦をするのをやめにすると言ってきました。殿さまは困っておふれを出しました。兄弟が母親に尋ねると「そんなことは、ちっともむずかしいことじゃない」と簡単に教えてくれました。三つの謎をといて、殿さまから望み通りのほうびをつかわすと言われた兄弟は、母が教えてくれたので、母を捨てないでいいことにしてほしいと頼みます。さて、殿さまは…。

この巻には初夏の話、田植えの時期の話を中心に、「舌切りすずめ」「食わず女房」「かにかに、こそこそ」「きつね女房」などが収められています。

3巻には、夏の話を中心に「桃太郎」「つぶ婿」などが収められています。

## つる女房

『子どもに語る 日本の昔話 ①』より

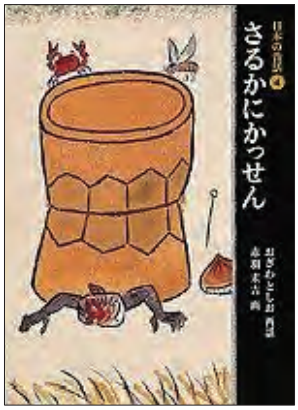
稲田 和子・筒井 悦子　　こぐま社　　1995年

若者は田んぼで、矢が羽にささっているつるを介抱してやります。家に帰ると美しい姉さまがいて、そのまま嫁にします。嫁は機を織りたいので「決して中を見てくださるな」と言い残して機を織り続けます。出来上がった織物は町で良い値で売れました。若者は、嫁が糸もなしにどうして織っているのか…。とうとう覗いてしまいました。

昔話の特徴を生かし、口に出して読みやすく、子どもも聞いてよくわかり楽しめるようになっています。

全3巻です。絵本では、矢川澄子再話、赤羽末吉画『つるにょうぼう』(福音館書店)があります。

## かちかち山




『日本の昔話 4 さるかにかっせん』より

おざわ としお 再話　　赤羽 末吉 画　　福音館書店　　1995年

畑仕事の邪魔をするたぬきをじいさまは捕まえ、家に担いで帰りました。悪賢いたぬきはばあさまを騙し、殺してしまいました。嘆き悲しんでいるじいさまを見てうさぎが仇を取ってやると約束します。うさぎはかや山に行ってかやを刈っていると、たぬきがやってきて、自分もかやを刈るといいます。かやを背負ったたぬきの後ろに回り、カチカチと火打石を鳴らし、たぬきの背中のかやに火をつけました。たぬきは不審に思い、カチカチは何の音かと聞きます。「このあたりはカチカチ山、カチカチ鳥の鳴き声さ」と答えます。うさぎは次々にたぬきを騙し、とうとう仇を取ります。

この巻には実りの秋の話を中心に「さるかにかっせん」「にぎりめしころころ」「とら猫と和尚さん」「風の神と子ども」などが収められています。

## 鳥のみじい

『子どもに語る 日本の昔話 ②』より

稲田 和子・筒井 悦子　　こぐま社　　1995年

おじいさんが畑に種をまいていると、「アヤチュウチュウ コヤチュウチュウ ニシキサラサラ ゴヨノサカズキ モッテマイロウカ ビビラビーン」とめずらしい鳴き声の小鳥が飛んできました。おじいさんが、間違って小鳥を飲み込んでしまうと、おじいさんのへそから、小鳥のしっぽが出てきます。そのしっぽを引っぱると腹の中からやっぱり小鳥の鳴き声が聞こえてくるのです、殿さまに聞かせますと大変喜び…。

子どもたちは、鳴き声が楽しく、何度も聞きたがる楽しいお話です。

「たにし長者」「ねずみ経」などが収められています。

## 三まいのおふだ

『愛蔵版 おはなしのろうそく 3 ついでにペロリ』より
東京子ども図書館　2000年

栗拾いに出かけたこぞうさんは、夢中で拾っているうちに山深く入り込み、声を掛けられたおばあさんの家に泊まりました。夜中、「タンツク タンツク こんぞうよ 起きて ばんばの面(つら)見れ」という雨だれの音で、おばあさんが鬼ばばだと気づき、逃げ出します。追ってくる鬼ばばから、おしょうさんがくれた三まいのお札をなげなげ、やっと寺に帰ってきました。こぞうさんを追ってきた鬼ばばはおしょうさんと化け比べをします…。

「おはなしのろうそく」は日本や世界の昔話、創作のお話などが5ないし6話入っている小さな本です。2冊がひとつになった愛蔵版は子どもにも読みやすくなっています。愛蔵版は、現在10巻まで出ています。

表紙の「ついでにペロリ」(デンマークの昔話)も楽しいお話です。

## なら梨とり

『子どもに語る 日本の昔話 ③』より
稲田 和子・筒井 悦子　こぐま社　1995年

病気の母親がなら梨を食べたいというので、3人の兄弟が順番に出かけます。太郎と次郎は、岩の上に座っていたばあさまの話を聞かず、沼の主に見つかってのまれてしまいます。末っ子の三郎は、ばあさまの言う通り進んで行って、なら梨を採り、そして、兄たちを助けだし、母親のところに帰ってきます。母親はなら梨を食べると元気になりました。

「天福地福」「おっぽの釣り」などが収められています。

絵本では、平野直再話、太田大八画『やまなしもぎ』(福音館書店)があります。

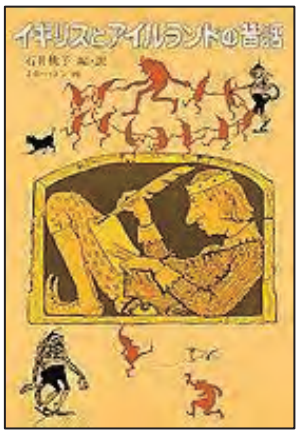
## ねずみのすもう

『日本の昔話 5 ねずみのもちつき』より
おざわ としお 再話　赤羽 末吉 画　福音館書店　1995年

じいさまが山へ木を切りに行くと、やせたねずみとふとったねずみがすもうをとっていました。よくみると、やせたねずみは、じいさまのところのねずみで、太ったねずみは、長者のところのねずみです。やせたねずみは、何度も投げ飛ばされていました。じいさまは家に帰ってばあさまにもちをついてもらい、じいさまのとこのねずみに食べさせました。すると次の日には…。

この巻には冬を感じさせる話を中心に「ねずみのもちつき」「雪おなご」「大歳の火」「貧乏神」「仙人のおしえ」「馬方やまんば」「ねずみの婿取」などが収められています。

## ちいちゃい、ちいちゃい




**『イギリスとアイルランドの昔話』より**

石井 桃子 編・訳　J・D・バトン 画　福音館書店　1981年

ちいちゃい、ちいちゃいおばあさんが、ちいちゃい、ちいちゃい教会の墓地でちいちゃい、ちいちゃい骨を見つけて、家に持って帰ります。戸棚にしまって眠ると「おれのほねを、かえしてくれ！」という叫び声が聞こえてきます。その声はだんだん大きくなり…。

子どもたちは、ちいちゃい、ちいちゃいということばの繰り返しにくすぐられ、骨がでてくるところあたりから薄気味悪くなってきます。

「三びきのクマの話」「「三びきの子ブタ」「ミアッカどん」「ジャックとマメの木」などが収められています。

## おいしいおかゆ

**『子どもに語る グリムの昔話 ①』より**

佐々 梨代子・野村 泫 訳　こぐま社　1990年

びんぼうな女の子が、森で会ったおばあさんからお鍋をもらいました。「ちいさなおなべや、にておくれ！」と言うと、おいしいおかゆを煮てくれる不思議なお鍋でした。ある時、女の子が留守の間に、お母さんがおかゆを煮るといつまでも煮続け、おかゆは鍋からあふれ、家からもあふれ、町中にあふれて…。

短いお話ですが、起承転結がはっきりして、幼い子にも向きます。

全6巻の中には「ルンペルシュティルツヘン」「赤ずきん」「ラプンツェル」「かえるの王さま」「ヘンゼルとグレーテル」「七わのからす」「白雪姫」などが収められています。

## 北風を たずねていった 男の子

**『子どもに語る 北欧の昔話』より**

福井 信子・湯沢 朱実　編・訳　こぐま社　2001年

大事な粉を北風に吹きとばされてしまった貧しい男の子が、粉を返してもらうため、北風を訪ねて行きます。粉はありませんでしたが、代わりに食べたいだけ食事が出てくるテーブルかけをもらいます。帰りに寄った宿屋で、普通のテーブルかけと取り換えられてしまいました。もう一度北風を訪ねて金貨を出すやぎをもらって来ますが、やはり宿屋で取り換えられてしまいます。三度目には、宿屋の仕業（しわざ）だと気づいた男の子は、北風にもらった杖を使って…。

ノルウェーの昔話です。

「屋根がチーズでできた家」（スウェーデン）「りすとてぶくろと針」（フィンランド）などが収められています。

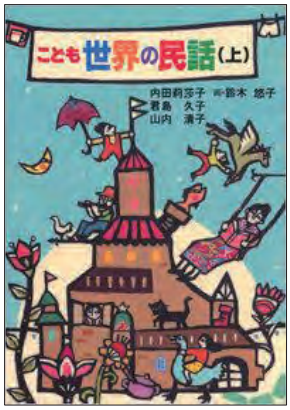
## かしこいモリー

『愛蔵版 おはなしのろうそく 1 エパミナンダス』より
東京子ども図書館　　2000年

子どもがたくさんいる貧しい夫婦は、下の3人の娘を森の中に捨てました。3人は一軒の家をみつけて、休ませてもらいますが、その家に住んでいたのは人食いの大男でした。一番下のモリーの機転で大男から逃げ出し、王さまのお城に辿り着きました。王さまは、大男のところに戻って刀やサイフや指輪を盗んで来たら、モリーや姉さんを王子の嫁にすると言います。「やってみます」と言って、モリーは大男のところに戻って行きます。モリーは知恵を使って大男と立ち向かい見事に…。

イギリスの昔話です。「エパミナンダス」(創作)「ブドーリネク」(チェコの昔話)「十二のつきのおくりもの」(スロバキアの昔話)などが収められています。

## さるのきも




『こども 世界の民話（上）』より
内田 莉莎子・君島 久子・山内 清子　　実業之日本社　　1995年

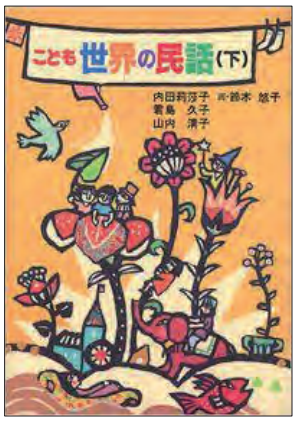
具合の悪いワニの奥さんはサルの生きぎもを食べればよくなると言います。ワニのだんなさんは、サルを騙し、背に乗せ川で沈めます。もうサルが逃げられないと思ったワニは「実はさるの生きぎもがほしい」と打ち明けます。サルは「今日は忘れてきちゃった」と言い、岸に戻してもらいました。そして、イチジクの実を渡します。ワニの奥さんは、イチジクを食べてケロリと元気になりました。

タイの民話です。

「やぎとライオン」(トリニダード・トバゴ)「マメ子と魔物」(イラン)などが収められています。

矢崎源九郎編『子どもに聞かせる 世界の民話』(実業之日本社) には、81の民話が収められています。

## 王子さまの耳はろばの耳




『こども 世界の民話（下）』より
内田 莉莎子・君島 久子・山内 清子　　実業之日本社　　1995年

子どものいない王さまは、3人の妖精にお願いして、王子を授かりました。お祝いにきた3人目の妖精は「王子さまにろばの耳が生えますように」と言ってしまいます。そうするとその通りになってしまいました。王子は、帽子をかぶってろばの耳を隠していましたが、伸びた髪を床屋に切ってもらうことになりました。耳のことを誰にも言うなと王さまに言われましたが、黙っているのが辛くなった床屋は穴を掘って、穴の中に向かって叫びます。

ポルトガルの民話です。

「アナンシと五」(ジャマイカ)「ひな鳥とねこ」(ミャンマー)などが収められています。

## ババヤガーの白い鳥

**『ロシアの昔話』より**

内田 莉莎子 編・訳　タチヤーナ・マブリナ 画　福音館書店　1987年

マーシャは両親の留守の間、弟の子守を頼まれましたが、弟を置いたまま友だちのところへ遊びに行ってしまいました。帰ってくると弟はいません。弟をさらったと思われる白い鳥の列を追って、広い野原を越え、深い森の奥へと探しに行きました。すると、ババヤガーの小屋に弟がいました。マーシャは弟の手をひっぱって、追いかけてくる白い鳥たちから逃げ帰ります。家に飛び込むと、ちょうどその時両親が帰ってきました。

「魔法の馬」「おおきなかぶ」「マーシャとくま」などが収められています。

## りこうなおきさき

**『りこうなおきさき』より**

モーゼス・ガスター 文　光吉 夏弥 訳　岩波おはなしの本　1963年

ある国の大臣に賢い娘がいました。大臣は王さまから出された難題に困っていると、娘が難題を解いてくれました。娘が賢いと知った王さまは、おきさきに迎えます。自分の裁判には決して口を出さないように言い聞かせました。しかし、おきさきは、王様の間違った裁(さば)きを正(ただ)させずにはいられなくなり、怒った王さまから出ていくように言われます。おきさきは出ていく前に王さまに願いごとをするのです…。

ルーマニアの昔話です。

「カメのせなかはなぜまるい」「キツツキのくちばしはなぜ長い」などが収められています。

## 山の上の火

**『山の上の火』より**

ﾊﾛﾙﾄﾞ･ｸｰﾗﾝﾀﾞｰ、ｳﾙﾌ･ﾚｽﾛｰ 文　渡辺 茂男　訳　岩波おはなしの本　1963年

召使のアルハは、冬の山で、火も水も着物も毛布もなしで一晩中立っていられるかどうかを、主人と賭(カ)けをすることになりました。物知りじいさんの知恵で、向かいの山の火を見つめて夜を明かし、賭けに勝ちますが、主人は火を見ていたことを知って、約束した家畜や土地をくれませんでした。そこで、再び物知りじいさんに相談して、宴会(えんかい)に主人を招き…。

エチオピアのたのしいお話です。

「グラの木こり」「おはなしのだいすきな王さま」などが収められています。

# そのほかにおすすめしたい昔話

**金のがちょうのほん**
四つのむかしばなし

レズリー・ブルック　文・絵
瀬田 貞二　訳
松瀬 七織　訳

福音館書店

**語るためのグリム童話集**
全7巻

小澤 俊夫　監訳
オットー・ウベローデ　絵
小澤昔ばなし研究所
再話
小峰書店

子どもに語る
**イタリアの昔話**
剣持 弘子 訳・再話
平田 美恵子 再話協力
他にも
アジア・アイルランド・トルコ
モンゴル・ロシア・中国
イギリスがあります
こぐま社

**ものいうなべ**
（デンマークのたのしいお話）
メリー・C・ハッチ　文
渡辺 茂男　訳

**ポルコさま ちえばなし**
（スペインのたのしいお話）
ロバート・ディヴィス　文
瀬田 貞二　訳

**白いりゅう 黒いりゅう**
（中国のたのしいお話）
賈芝、孫剣冰　編
君島 久子　訳

岩波おはなしの本

**世界のむかしばなし**

瀬田 貞二 訳

のら書店

**三本の金の髪の毛**
（中・東欧昔話）

松岡 享子 訳

のら書店

よみたい ききたい
むかしばなし①のまき

**ねこのおんがえし**
中川 李枝子 文

のら書店

よみたい ききたい
むかしばなし②のまき

**いたずらぎつね**
中川 李枝子 文

のら書店

コラム

## 昔話には、いろいろな特性がある

昔話は、具体的にどこで起こっていることなのか、地域も場所も語ってくれていません。

昔話は、大昔のことなのか、それほど昔ではないのか、時代を特定していないので、さっぱり分かりません。ですから、昔話は「むかし、むかし、あるところに……」で始まる形式をとることが多いのです。

昔話は、一見残酷のようなところがあります。しかし、脚を一本食いちぎられたという場面でも、実体を写実的に語りませんから、血は流れていません。残酷さを切実に実感することはないのです。

このように、昔話は、架空の世界を、抽象的に描いている特性があります。

また、日本の昔話は、「めでたし、めでたし」とハッピーエンドで終わるのが一つの典型となっています。

【愛川町子どもの読書を推進する会】